

3-3 目標の設定

前述の評価指標について現況値を整理するとともに、本計画の実現による目標について以下のとおり設定します。

パッケージ	代表指標		算出に用いる資料	現況値 (基準年)	目標 (平成32年度)
拠点まちづくり 支援パッケージ	①	歩道バリアフリー化整備率	札幌市市民まちづくり局資料 (バリアフリー特定事業計画)	47% (平成22年度)	100%
	②	公共交通分担率 (地下鉄・JR・バス・路面電車)	道央都市圏総合都市交通体系調査協議会資料 (パーソントリップ調査)	19% (平成18年度)	現状より増加
都心まちづくり 支援パッケージ	③	都心の歩行者交通量	札幌市商店街振興組合連合会資料(札幌市都心商店街通行量調査)	1地点平均(平日) 約15,000人 (平成22年度)	現状より増加
観光促進 パッケージ	④	札幌観光の満足度 (観光スポットへのアクセス)	札幌市観光文化局資料(来札幌観光客満足度調査)	満足割合82.9% (平成22年度)	現状より増加
広域連携 パッケージ	⑤	主要拠点間のアクセス時間 (特に都心・新千歳空港間の道路所要時間)	北海道開発局資料(道路交通センサス旅行速度)	79分 (平成17年度)	現状より短縮
環境負荷低減 促進パッケージ	⑥	市内CO ₂ 排出量 (運輸部門)	札幌市環境局資料	294万tCO ₂ [参考]1.55tCO ₂ /人 (平成19年度)	現状より削減
	⑦	公共交通に対する満足度	札幌市市長政策室資料(評価指標達成度調査)	満足割合45% (平成22年度)	現状より増加

※上記の他に、個別の交通施策・事業における効果検証の結果についても考慮します。

【参考】パッケージ別の「評価指標」選定結果

パッケージ	評価指標	算出方法	データ入手・効果計測の難易度	代表指標選定
拠点まちづくり支援	1-1 歩道バリアフリー化整備率(重点整備地区53箇所)	バリアフリー新法における「生活関連経路」の歩道バリアフリー化整備率を集計	◎ 市民まちづくり局資料より収集・計測が可能	代表指標
	1-2 公共交通分担率(地下鉄・JR・バス・路面電車)	パーソントリップ調査結果より、公共交通分担率を算出	○ 道央都市圏総合都市交通体系調査協議会資料より確認が可能	代表指標
	1-3 生活拠点の駅乗車人員	拠点駅における乗車人員を集計	◎ 市民まちづくり局資料より収集・計測が可能	
	1-4 拠点周辺の主要道路の交通事故件数	市街地幹線道路の交通事故件数を集計	○ ITARDAデータの収集後、集計する必要がある	
	1-5 拠点周辺の歩行者交通量	拠点周辺道路(定点)における歩行者交通量を観測	△ 新規調査が必要	
	1-6 拠点駅周辺の放置自転車台数	駅周辺における放置自転車台数を観測	△ 新規調査が必要	
都心まちづくり支援	2-1 都心の歩行者交通量	都心の主要道路(定点)における歩行者交通量を集計	◎ 札幌市都心商店街通行量調査より収集が可能	代表指標
	2-2 都心の駅乗車人員	都心の駅(JR札幌、地下鉄さっぽろ、大通、すすきの、豊水すすきの等)における乗車人員を集計	◎ 市民まちづくり資料より収集が可能	
	2-3 都心の商業販売額	都心に立地する事業所の商業販売額(小売・卸売)を集計	◎ 商業統計調査より収集が可能	
	2-4 都心の放置自転車台数	都心における放置自転車台数を観測	△ 新規調査が必要	
観光促進	3-1 札幌観光の満足度(観光スポットへのアクセス)	市資料より、市民の満足度を集計	◎ 観光文化局資料より収集が可能	代表指標
	3-2 主要観光拠点間のアクセス時間	速度調査結果より、都心と主要観光拠点間のアクセス時間を集計	○ 道路交通センサデータの収集により確認が可能 また、外部プローブデータの収集により確認が可能	
広域連携	4-1 主要交通拠点間のアクセス時間	速度調査結果より、主要な拠点間 ^{※1} のアクセス時間を集計 ^{※1} 都心・空港間、都心・港湾間、空港・主要観光地間等	○ 道路交通センサデータの収集により確認が可能 また、外部プローブデータの収集により確認が可能	代表指標
	4-2 市境スクリーン自動車交通量	主要広域幹線における市境付近交通量を集計	○ 道路交通センサデータの収集により確認が可能 また、外部機械計測交通量の収集により確認が可能	
	4-3 丘珠空港利用者数	丘珠空港の利用者数を集計	◎ 市民まちづくり局資料より収集が可能	
環境負荷低減促進	5-1 CO2排出量(運輸部門)	札幌市全体のCO2排出量(運輸部門) ^{※2} を集計	◎ 環境局資料より収集が可能	代表指標
	5-2 公共交通利用満足度	市資料より、市民の満足度を集計	○ 外部資料より収集が可能	代表指標
	5-3 札幌市内渋滞損失時間	札幌市内の渋滞損失時間を算出	○ 外部資料より収集が可能	

※1 「広域連携パッケージ」における評価指標

主要交通拠点間のアクセス時間(道路所要時間)については、前述のほかに物流等の観点から、小樽港および石狩湾新港～新千歳空港間なども考えられますが、札幌市域外における施策・事業の影響が大きいことから、広域連携パッケージの評価指標として、特に都心～新千歳空港間のアクセス時間を設定することとしています。

※2 CO2 排出量(運輸部門)

当該年度のデータより札幌市民1人当たりの排出量(運輸部門)を参考値として、モニタリングによりその傾向を把握します。

(参考) 一人当たりのCO2 排出量(平成19年度)【運輸部門】

$$2,939,007 \text{ (tCO}_2\text{)} \text{【運輸部門計】} \div 1,895,654 \text{ (人)} \text{【札幌市人口(平成20年3月)]} = 1.55 \text{ (tCO}_2\text{/人)}$$